

ユネスコ無形文化遺産とは？

ユネスコ(国際連合教育科学文化機関)が、人類にとって重要な無形文化遺産の保護・継承を目的として「無形文化遺産の代表的な一覧表」に記載したものが「ユネスコ無形文化遺産」です。日本では「能楽」「人形浄瑠璃」「歌舞伎」「雅楽」などが登録されています。

東北地方では、「早池峰神楽(岩手)」「秋保の田植踊(宮城)」「大日堂舞楽(秋田)」や、「来訪神:仮面・仮装の神々」として「男鹿のナマハゲ(秋田)」「吉浜のスネカ(岩手)」「米川の水かぶり(宮城)」「遊佐の小正月行事(山形)」が登録されています。さらに近年、秋田の西馬音内盆踊などを含む「風流踊」(2022年)や「伝統的酒造り」(2024年)も追加登録されました。

※ユネスコの遺産事業としては「無形文化遺産」のほかに「世界遺産(文化遺産・自然遺産・複合遺産)」「世界の記憶」があります。



八戸三社大祭の山車行事(青森県八戸市)
毎年7月31日～8月4日

土崎神明社祭の曳山行事(秋田市)
毎年7月20日～21日

角館祭りのやま行事(仙北市)
毎年9月7日～9日

花輪祭の屋台行事(鹿角市)
毎年8月19日～20日

新庄まつりの山車行事(山形県新庄市)
毎年8月24日～26日

全国37件の山・鉾・屋台行事

東北

- 青森県 ● 八戸三社大祭の山車行事
秋田県 ● 角館祭りのやま行事
● 土崎神明社祭の曳山行事
● 花輪祭の屋台行事
山形県 ● 新庄まつりの山車行事

北陸

- 富山県 ● 高岡御車山祭の御車山行事
● 魚津のタテモン行事
● 城端神明宮祭の曳山行事
● 放生津八幡宮祭の曳山・築山行事
石川県 ● 青柏祭の曳山行事
新潟県 ● 村上祭の屋台行事

関東

- 茨城県 ● 日立風流物
栃木県 ● 烏山の山あげ行事
● 鹿沼今宮神社祭の屋台行事
埼玉県 ● 秩父祭の屋台行事と神楽
● 川越氷川祭の山車行事
千葉県 ● 佐原の山車行事
茨城県 ● 常陸大津の御船祭

中部

- 岐阜県 ● 高山祭の屋台行事
● 古川祭の起し太鼓・屋台行事
● 大垣祭の軸行事
愛知県 ● 尾張津島天王祭の車楽舟行事
● 知立の山車文楽とからくり

中部

- 愛知県 ● 大山祭の車山行事
● 亀崎潮干祭の山車行事
● 須成祭の車楽船行事と神葎流し
三重県 ● 鳥出神社の鯨船行事
● 上野天神祭のダンジリ行事
● 桑名石取祭の祭車行事

関西

- 滋賀県 ● 長浜曳山祭の曳山行事
● 大津祭の曳山行事
京都府 ● 京都祇園祭の山鉾行事

九州

- 福岡県 ● 博多祇園山笠行事
● 戸畑祇園大山笠行事
佐賀県 ● 唐津くんちの曳山行事
熊本県 ● 八代妙見祭の神幸行事
大分県 ● 日田祇園の曳山行事



角館のお祭り

国指定重要無形民俗文化財
ユネスコ無形文化遺産
角館祭りのやま行事

九月七日・八日・九日
秋田県仙北市角館町

義経千本櫓
藤王堂
花実倉の堀

毎年9月7日から9日にかけて、角館總鎮守神明社(神明社)と勝楽山成就院薬師堂(薬師堂)のお祭りに合わせて行われる行事で、武者人形や歌舞伎人形を飾った「やま」と呼ばれる山車が18丁内から出され、江戸時代の面影が遺る町中を曳き廻します。

各丁内の山車と曳き手は、角館總鎮守神明社と勝楽山成就院薬師堂への参拝、佐竹北家御当主へ上覧を仰ぐことを大きな目的として曳き廻します。山車の運行中は、絶えずおやま囃子が囃され、各家々に囃子と手踊りを披露しながら目的を遂行します。また、丁内間には境界が定められており、山車が丁内を行き来する際には必ず「張番」から許可をもらう必要があります。角館のお祭りは、参拝や上覧の時間、曳き廻す道筋を各丁内が独自に決めるため、城下町の狭い道路で山車同士が鉢合わせとなることがたびたびあります。その場合、道の通行権をめぐる交渉が行われますが、交渉が決裂すると相手の山車を乗り越えてでも前に進むという意気込みから「やまぶっつけ」に発展します。

この祭りは江戸時代中頃から神仏への信仰とともに地域の繁栄、豊作、無病息災を願い、脈々と受け継がれてきました。1991(平成3)年に「角館祭りのやま行事」として国の重要無形民俗文化財に指定され、2016(平成28)年には、「山・鉾・屋台行事」のひとつとしてユネスコ無形文化遺産に登録されました。



勝楽山成就院薬師堂



角館總鎮守神明社

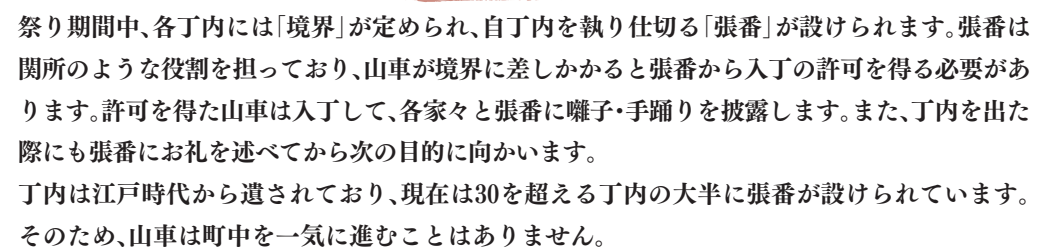
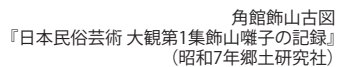
江戸時代に角館を治めた佐竹北家の記録「北家御日記」には角館のお祭りに関する多くの記述があります。1694(元禄7)年に『「鹿島祭り」各丁内ごとに人形を乗せた船をつくり、北家御目にかける。』という記録が残っており、この記録が角館で行われたお祭りの初見と考えられています。さらに、1770(明和7)年には「鹿島山等上る」という記述があり、「船」ではなく山という文字からも角館のお祭りの原形を垣間見ることができます。

角館町では武家が住む町を内町、それ以外の町人が暮らす町を外町と呼びます。角館のお祭りは外町(町人)のお祭りとして発展し、外町の9つの丁内(外町九丁内)から人形を乗せた山車が薬師堂のお祭りに合わせて繰り出されていました。当時は、現在の曳山ではなく、山を担いで(担ぎ山)町中を練り歩き、薬師堂への参拝と佐竹北家御当主の上覧を仰いでいました。

明治初期の神仏分離令により薬師堂は勝楽神社となり、薬師堂の祭りはしばらく途絶えましたが、その間は神明社の例祭時に山車が出されたと伝わっています。1880(明治13)年までに薬師堂は真言宗のお寺に還り、神明社と薬師堂両者のお祭りに山車が出されるようになりました。その後、担ぎ手不足や電線の架設に伴い、従来の担ぎ山から車輪をつけた曳山が増え、1910(明治43)年以降はすべてが曳山となりました。山車の形態は変化したもの、お祭りは戦時中も途絶えることなく脈々と受け継がれてきました。



色館飾し山車



事前に相手や場所・時間を決めて行われる観光用やまぶっつけは、8日の夕方から町内各地で見ることができます。3トン以上の重さがある山車を正面からぶっつけ合う様子は迫力があり、お祭りの見所の1つでもあります。

おやま囃子は太太鼓・小太鼓・鼓・笛・三味線・鉦・地方で構成され、山車の内部に設けられた狭いスペースで演奏します。囃子は山車の運行中、絶えず囃されます。

おやま囃子に合わせて舞う手踊りは、神明社・薬師堂への参拝、佐竹北家上覧、各丁内の張番と家々へ披露されます。紫の紋付き長着や緋の衣装をまとったお婆こ姿の踊り手が山車の舞台上で踊ります。

【秋田甚句・秋田おばこ・おやまこ・おいとこ・組音頭
…町内を賑やかすときの余興用の曲